



地域のスポーツと活動拠点が秘める可能性

2025年12月19日（金）

弓田恵里香（仙台大学）@社会体育施設等の地域スポーツ活動拠点化セミナー



農業



医学

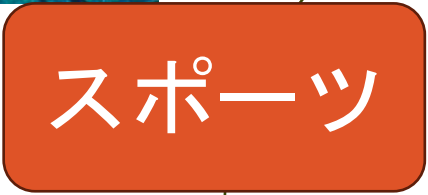


芸術

都市再生？



教育



スポーツ





Amateur Sports Capital

「スポーツ」で 都市再生に成功

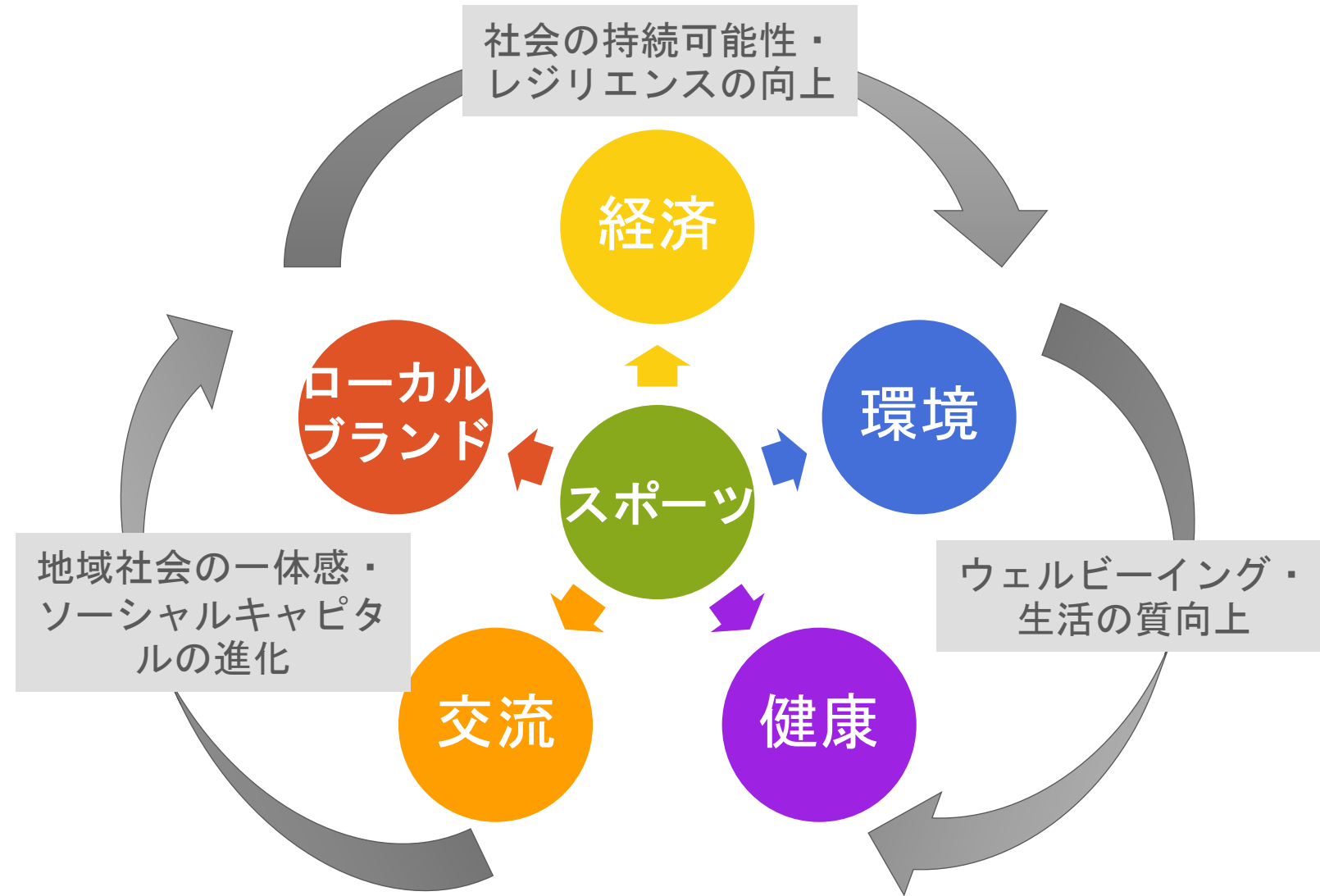
アメリカ中西部の田舎町
インディアナポリス

- 農業や車産業の衰退
- 都市部のスラム化
- 「スポーツ」を活用
インフラ整備
プロスポーツ誘致
本部の誘致 など

なぜ、「スポーツ」で
なければいけないのか？

他分野と何が違うのか？

「スポーツ」がもたらす多様な価値



■ 経済

消費活動の活発化、雇用創出、高付加価値の消費、賑わいづくり など

■ 環境

エコフレンドリー、ユニバーサルデザイン、防災機能の向上、場の環境改善 など

■ 健康

心身の健康、ライフステージに応じた生活、人間形成、幸福度の向上 など

■ 交流

人材育成・教育機会の提供、人を巻き込む、地域内外の交流創出、多様性 など

■ ローカルブランド

国内外に向けた発信、地元の魅力発掘・磨き上げ、シビックプライド など

地域のスポーツ活動拠点の必要性

運動スポーツ実施に関わる多様な要素

図表 2-16 スポーツの実施（開始・継続）を促進／阻害する要因に関する仮分類

スポーツの実施（開始・継続）を促進／阻害する要因の例

社会・環境的要因	社会環境	<ul style="list-style-type: none"> ・経済環境（スポーツへの支出意向など） ・労働環境（労働時間の長さなど） ・家庭環境（仕事、育児、家事、介護など）
	周辺環境	<ul style="list-style-type: none"> ・物理的な環境（（学校含む）施設、設備、サービス、指導者など） ・コミュニティ環境（一緒にできる家族、仲間など） ・月経痛や月経前後の体調不良時の医療相談窓口がない
心理的要因	過去の経験	<ul style="list-style-type: none"> ・過去のスポーツ経験 ・苦手意識の有無
	周囲の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・外見への印象、世間の評価、社会的風土（汗をかく、筋肉質になる、はしたない、家事を軽視しているなど）
	自己充足感	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツから得られる効果（楽しさ、リフレッシュ、他者との交流等） ・スポーツ観・態度・意識（パーソナリティ含む） ・日常生活におけるスポーツの優先順位
身体・生理的要因	成長・加齢による身体の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・月経（生理痛による体のつらさ、生理中の体育の授業など） ・ホルモンの変化に伴う心身の変化

【前提】
性的少数者、心身の障がいはいすべての要因に関係しうると想定

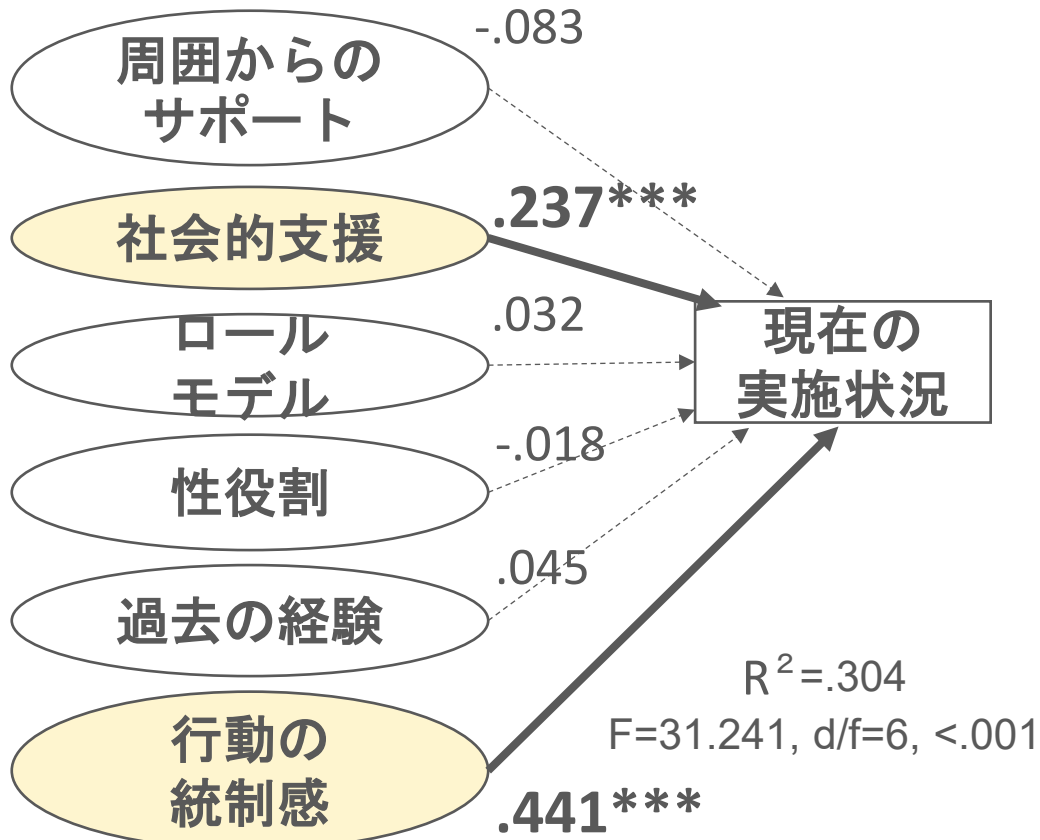


- ・ 地域での取り組み
- ・ スポーツ活動拠点の役割
- ・ 優先順位の検討

有限責任監査法人トーマツ(2025)「女性のスポーツ実施促進に係る環境整備等に関する研究事業報告書」 pg.25から引用

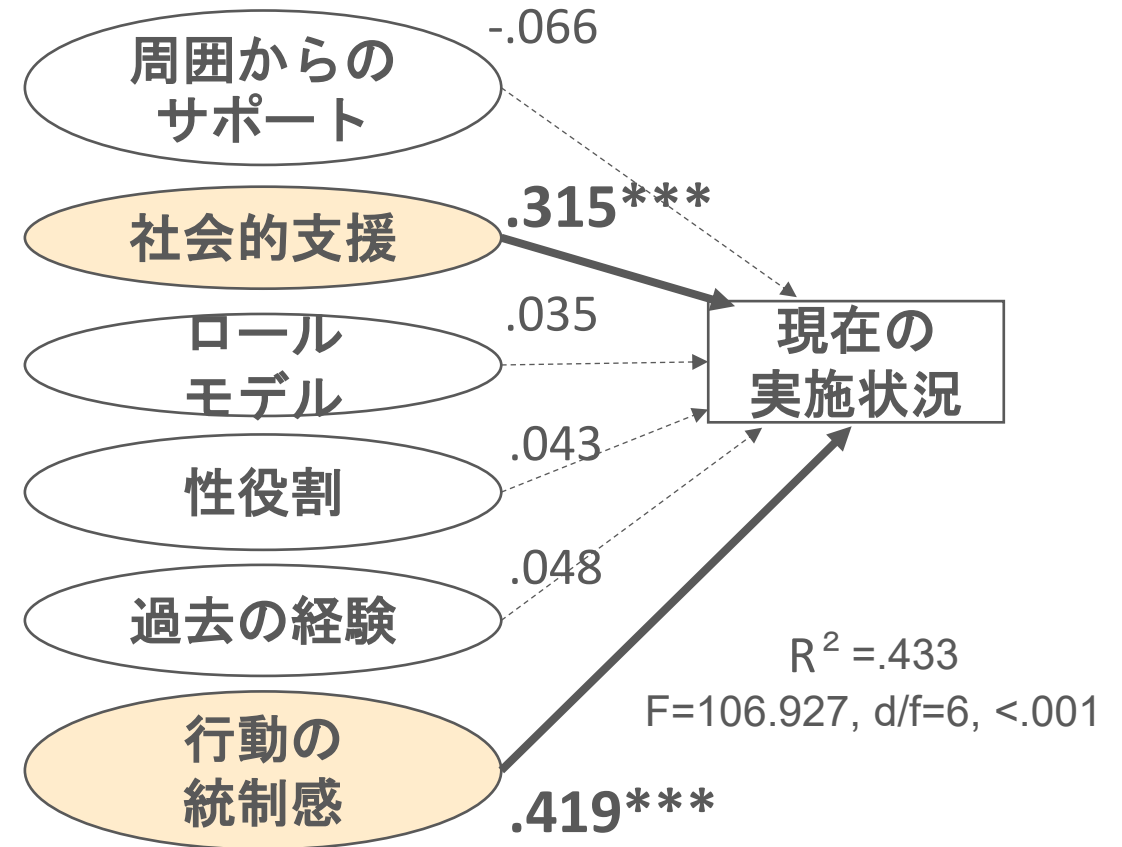
日豪の女性スポーツ実施継続要因

日本



*** $p < .001$

オーストラリア



「社会的支援」におけるポイント

日本

オースト

施設・設備

.274**

施設・設備

.16

環境でも特にハード面のニーズが高い

「情報」も重要なファクター

金銭的な「お手頃感」も後押しとなり得る

周囲からの
支援

-.153*

周囲からの
支援

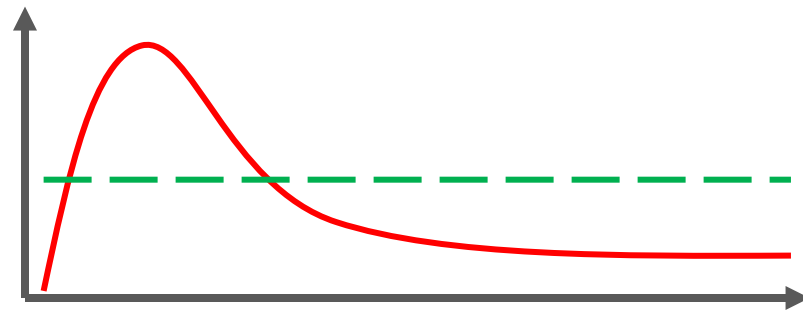
.062

*p<.05, **p<.01, ***p<.001



各地での取り組みから
見えてくるポイント

単発型 ⇒ 通年型



- ✓ 地域の雇用維持、繁忙期と閑散期の緩和
- ✓ 「非日常」を楽しむ⇒「日常」を楽しむへ



既存施設の拡充

✓ 資源の掛け合わせ、ターゲット層を意識





「非日常」と「日常」のバランス

✓用途の多様化

「境界線」をなくす

✓ 視界に入れる、敷居を下げる

非日常

日常

施設内

地域



新たな価値を生み出すためのヒント

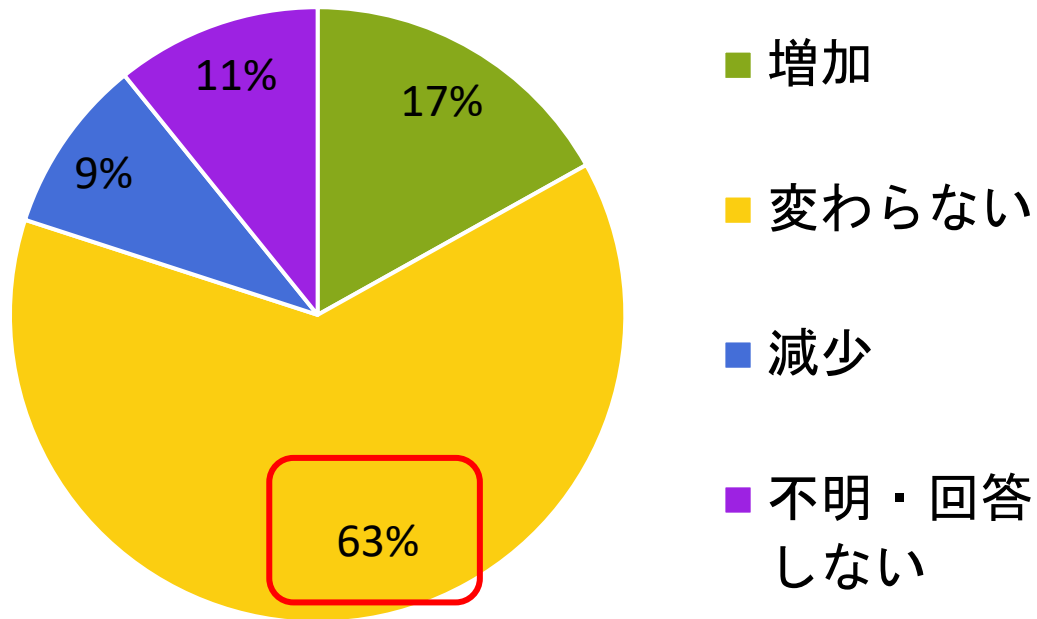
<p><u>加える</u> 他にはない付け加えるべき要素</p>	<p><u>増やす</u> 標準に比べ大胆に増やすべき要素</p>
<p><u>削る</u> 常識の範疇で取り除くべき要素</p>	<p><u>減らす</u> 標準と比べ思い切って減らすべき要素</p>

ブルー・オーシャン戦略 (キム・モボルニュ, 2007: pg.51) の4つのアクションを参考に、地域のスポーツ活動拠点における新たな価値提供の検討が可能

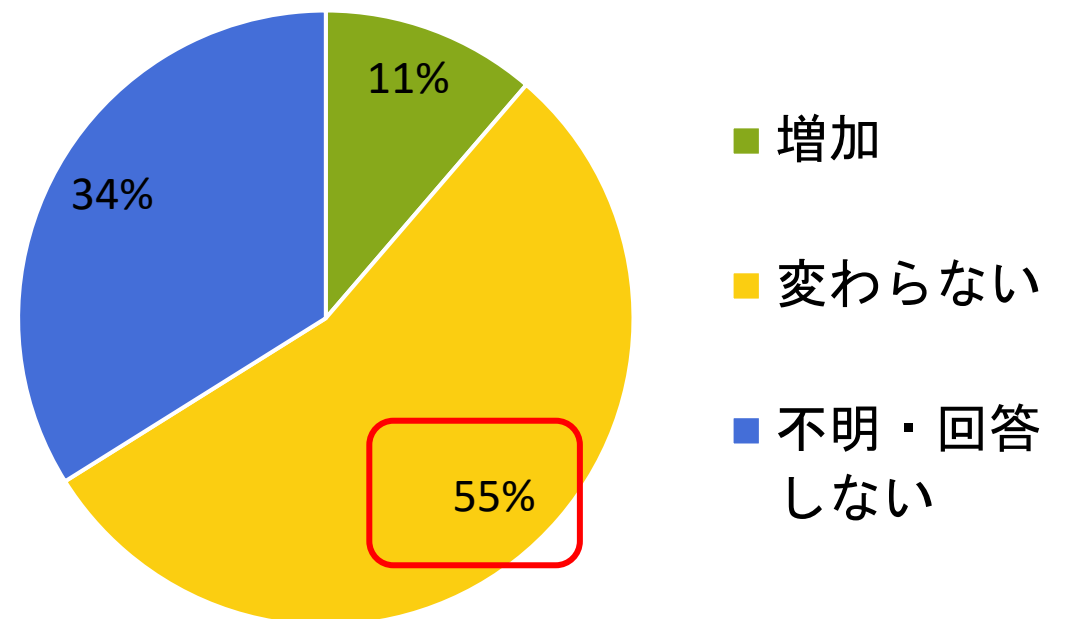
活動拠点を整備した「その後」

事業者の「肌感」

期間中の売り上げの変化



期間中のHP等の閲覧数



(地方都市において開催されたスポーツイベントを対象とした調査結果より)

数字の内訳、対象者の特性は？

	参加型 競技志向	参加型 レク志向	観戦型 地元中心	観戦型 県外中心
消費額	4.4万円 (交通宿泊88%)	5.3万円 (飲食買い物46%)	1.1万円 (飲食26%)	4.9万円 (交通宿泊74%)
滞在日数	5.0泊 (県外100%)	2.0日 (県外100%)	1.1日 (県外30%)	2.3泊 (県外91%)
観光行動	駅周辺のみ	駅周辺＋市内＋ 近郊エリア	駅周辺のみ／どこ も行ってない	駅周辺＋市内＋ 近郊エリア
同伴者	2.1人	0.4人	2.6人	2.3人

(地方都市において開催されたスポーツイベントを対象とした調査結果より)

「評価」と地域課題の解決



- **経済波及効果は参考値**

スポーツ消費者の行動、地域の事業者の実情は？

- **多様な評価指標の検討**

行動的变化、心理的变化、社会的変化

- **政策課題や最終目的との関連性**

目指す姿、数値が示す「意味」を考える



軸は常に「地域の課題」

1. ロジックモデルとは — ①定義

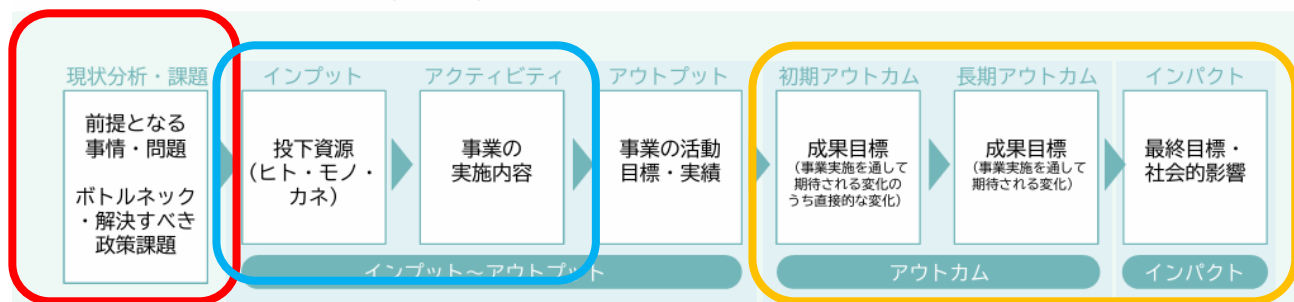
EBPM

定義

政策課題とその現状に対し、
政策手段から政策目的までの経路(ロジック)を端的に図示化したもの

(※行政改革推進本部事務局「EBPMガイドブック Ver1.2」より)

- どの政策も、どのような行動がどのような結果をもたらすかについての仮説を持っているはずで
す。そうした仮説について、政策の遂行によって政策課題が解決されるまでの論理的な道筋を示し
たものがロジックモデルです。*
- 政策の具体的な活動によってもたらされるものは、アウトプット・アウトカム・インパクトに分
けて示します。(詳細はp6及びp18-19をご覧ください)**



* 参考: Hatry, P. Harry (1999) Performance Measurement: Getting Results, Urban Institute Press. 上野 宏 = 上野 真紀子訳 (2004) 『政策評価入門—結果重視の業績測定』 東洋経済新報社 p58

** アウトカムは、政策の特性に応じて、初期アウトカム・中期アウトカム・長期アウトカムの3つに分けて書く場合もあります。

(文科省, 2023; 「ロジックモデル」作成マニュアルpg3)

https://www.mext.go.jp/content/20230410-mxt_kanseisk01-100000155-3.pdf

<第1回目ワークショップ>



<第2回目ワークショップ>

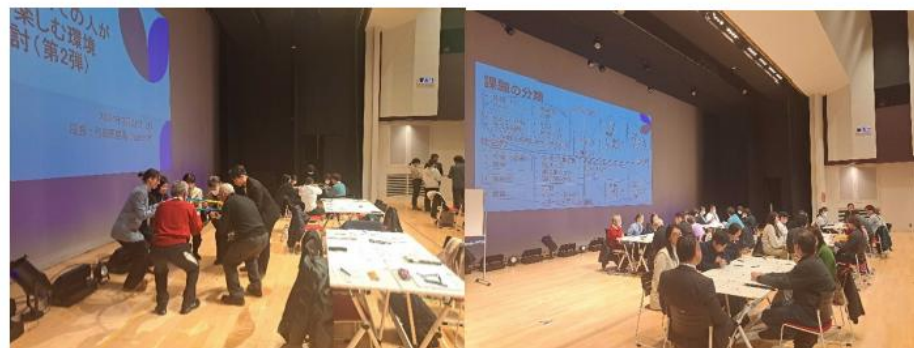


図1. 課題抽出と整理に関する6グループの発表内容